

今後のスーパーサイエンスハイスクールの在り方（案）に対する スーパーサイエンスハイスクール企画評価会議における主な意見

【見直し案の制度設計について】

- 全体としてメリハリをつけるのは良い。トップ人材の育成と全学的な取組とでは教育内容や指導の在り方も変わるものであるところ、類型を設けることによって学校ごとにSSHに取り組む目的の明確化がなされるであろう点でも良い案と考える。
- 現行制度では創成期が少し長いと感じていたが、見直し案では支援期間がコンパクトとなり、高校からみても先を見通しやすい制度になるのではないか。
- 認定枠の学校も増加してきているが、指定期間終了後に認定枠への移行を選択しない学校が多くなるのではないかと懸念していた。研究開発校としての取組が継続されない状況は好ましくないため、認定枠への加速支援は良い案と考える。
- 見直し案にある類型のうち、特に類型1の学校には、指定校以外の学校や教員の取組を後押しし、教員たちを繋ぐ役割を果たしてもらいたい。
- 理系であっても国際的に活躍する人材には歴史などの教養が求められることから、各類型における文系的な要素の位置づけも検討されたい。
- 公立の指定校については、これまで以上に設置者の役割や取組度合いが鍵を握るのではない。SSHに関する設置者の政策と各指定校の取組方針を今まで以上にすり合わせて、チームとして取り組んでいくことが重要。

【その他】

- 理数探究と理数探究基礎が科目として開設されたのは、SSH事業の大きな成果。SSH指定校以外でも同科目の開設が広がり、課題研究がより一層発展すると良い。
- まだSSHの指定を受けていない潜在的な学校の掘り起こしも今後の課題。これからSSHに申請する予定の学校に向けて、指定校での取組を広く周知する機会があれば、挑戦する学校が一層増えるのではないか。
- SSH指定校以外で理数系教育や探究に力強く取り組んでいる教員とSSH指定校の教員がノウハウを共有する会議体のようなものが地域ごとにあっても良いのではないか。
- 大学、企業、自治体等との連携においては、担当教員の個人的な関わりだけで依頼するのではなく、管理機関やコーディネータなどの支援のもと、組織的な連携が必要である。

【参考】スーパーサイエンスハイスクール実施要項（平成14年4月10日文科科学大臣決定、令和7年3月25日最終改定） 抄

6 スーパーサイエンスハイスクールの運営

- （1）文部科学省は、本事業での理数系教育に関する研究開発等の推進に係る企画、指定校に係る審査及び研究開発の評価等を行うため、スーパーサイエンスハイスクール企画評価会議を開催する。

10 スーパーサイエンスハイスクール企画評価会議

- （1）スーパーサイエンスハイスクール企画評価会議は、学校教育に専門的知識を有する者、学識経験者、関係行政機関の職員等をもって構成する。